

資質向上のためのセルフチェックシート 【栄養教諭】

所属		記入年月日	令和 年 月 日
氏名		記入年月日	令和 年 月 日

キャリア・ライフステージ	基礎力の形成期		
年齢・教職経験年数(目安)	23歳～27歳 ・ 1～5年		
目指す教員像	初任施設における学校勤務等の経験を通じて、栄養教諭の専門領域に関する基礎的な職務遂行能力を身に付けている。		
岩手の基本研修	初任者研修	2年目研修	3年目研修

資質向上に関する指標		自己評価	
		4～1を記入※	
		4月時点	〇月時点
1 教員としての素養			
自ら学び続ける意欲・探究心 ①	・全ての児童生徒の可能性を引き出すため、「個別最適な学び」「協働的な学び」など「令和の日本型学校教育」を理解するとともに、時代や社会の変化、キャリア・ライフステージに応じて求められる資質を高めながら、自律的に学び、探究する姿勢を持ち続けている。	3	4
使命感、責任感、倫理観 ②	・教員としての使命や責任、岩手の教育を担う一員であることを深く自覚し、教育への情熱と誇り、高い倫理観を持っている。また、岩手の未来を担う児童生徒の生命を尊重し、自ら、そして組織におけるコンプライアンスの徹底に取り組んでいる。	4	4
教育的愛情、人権意識 ③	・教育に携わる者として児童生徒に対する深い愛情を持ち、真剣に向き合っている。また、「子どもの権利条約」や「子ども基本法」などの理念を踏まえ、人権尊重の意識を身に付けている。	3	3
豊かな人間性 ④	・豊かな人間性を持ち、社会人としての常識や幅広い教養を身に付けている。	3	3
コミュニケーション力 ⑤	・学校内外の様々な背景・価値観を持つ人々との対話を通して、円滑なコミュニケーションを図るとともに、チームとして課題解決に取り組むことの重要性を深く認識している。	2	3
課題に立ち向かう力 ⑥	・心身共に健康で、様々な状況でも感情をコントロールしながら、忍耐力とチャレンジ精神を持って、新たな教育課題を含む様々な課題解決に取り組んでいる。	3	3
2 栄養教諭の専門領域における職務			
栄養管理 ⑦	・児童生徒の食生活や地域の実態と課題を把握し、学校給食摂取基準や食品構成に配慮した献立の作成により、適切に栄養管理を行っている。	2	3
衛生管理 ⑧	・調理場・受配校の施設・設備、食品の取扱い、調理作業、衛生管理体制等の実態把握に努め、学校給食衛生管理基準に基づき、適切に対処している。	2	3
給食の時間等における食に関する指導 ⑨	・児童生徒の食生活の実態と課題を把握し、食に関する指導の全体計画や年間指導計画等に位置付けて、給食の時間等における食に関する指導を行っている。	3	3
個別的な相談指導 ⑩	・食に関する健康課題を有する児童生徒の実態を把握するとともに、必要に応じて同僚の助言を受けながら、適切に対処している。	2	2
3 生徒指導力			
発達支持的生徒指導 ⑪	・学級経営の方針に基づき、集団指導及び個人指導の両面から、全ての児童生徒に対する必要な生徒指導を実践している。	2	3
いじめ等の問題行動・不登校等への対応 ⑫	・いじめ等の問題行動・不登校等の未然防止に努め、兆候を発見する視点を持って児童生徒一人一人と向き合うとともに、他の教員や関係機関との連携を心がけている。	3	3
教育相談 ⑬	・学校の教育相談体制を理解し、必要に応じて助言を受けながら、随時的・計画的に教育相談の機能を教育活動に生かしている。	2	2
4 マネジメント力			
学校及び共同調理場組織における連携・協働 ⑭	・校内及び共同調理場内における自己の役割を理解し、必要に応じて同僚の助言を受けながら業務を推進している。	3	2
危機管理 ⑮	・常に児童生徒の安全や健康に配慮し、日頃から同僚との情報の報・連・相に努めている。	3	3
関係者等との連携・協働 ⑯	・学級や部活動等で、担当する児童生徒の保護者と積極的なコミュニケーションに努めている。	1	2
5 復興教育の視点			
⑰	・復興教育の理念や3つの教育的価値などを理解するとともに、児童生徒が震災の経験や教訓を学ぶ機会を設定するなど、復興教育を実践している。	2	3
6 キャリア教育の視点			
⑱	・本県のキャリア教育の考え方や学校の実情などを理解し、学びの連続性や社会との接続を意識しながらキャリア教育を実践している。	2	3
7 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への教育の視点			
特別支援教育 ⑲	・児童生徒一人一人の特性や学習状況の理解に努め、教職員間の共通理解や関係機関との連携・協働を進めて、指導内容や指導方法を工夫している。	3	4
多様性への配慮 ⑳	・特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の特性等を理解し、多様性への配慮の視点を持って支援している。	3	3
8 ICTや情報・教育データの活用の視点			
㉑	・学校におけるICT活用の意義を理解し、授業や校務等での積極的・効果的な活用を図るとともに、児童生徒の情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための授業実践等を行っている。	4	3
㉒	・幅広く教育データを活用し、自らの指導の改善と、児童生徒の学習の改善を図ることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に取り組んでいる。	3	3

※「自己評価」 4:よく当てはまる 3:どちらかというと当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない

自己の資質向上のために今後取り組みたい事項、伸ばしたい力等

